

鎌倉楽しむ会

春の芽吹きを感じる！

西郷山公園～東山貝塚公園

～東大駒場キャンパス～

駒場公園の旧前田侯爵邸

JR 渋谷駅 9 時 30 分

平成 30 年 2 月 28 日

西郷山公園 & 菅刈公園



● 西郷山公園は、西郷從道公^{じゅうどう}の屋敷跡です。従道公は、明治の元勳・西郷隆盛公の 16 才下の弟です。隆盛公は江戸城無血開城の偉業を成し遂げ明治新政府の元勳となったが、征韓論に敗れ下野し薩摩に帰って行った。その時、従道公は新政府の要職（陸軍大輔）にあったので、兄・

隆盛公に同行しなかった。その後、兄の隆盛公が再起し東京に来た時を思い、この広大な土地を買い求めておいた。しかし、隆盛公は明治 10 年（1877）西南戦争に敗れ城山で自刃してしまう。従道公はこの土地を自らの別邸として使用するようになった。明治 20 年（1887）には 2 階建ての洋館が竣工し、その 2 年後には書院造りの屋敷も完成した。従道公の死後は本邸として使われていたが、昭和 16 年西郷家が渋谷に移転する際に売却された。



● その後、和館は戦災で焼失したが、洋館は残り、一時プロ野球の国鉄スワローズの選手寮になっていたこともある。現在は愛知県犬山市の明治村に移築され、国の重要文化財となっている。上の写真は旧西郷家の土地でもあった隣接する「菅刈公園」です。



● 約 4 km にわたり桜並木が広がる人気のところ。春には桜が咲き乱れ、大勢の花見客で賑わう。また、目黒川沿いには個性派ショップも立ち並び、お花見とともにショッピングを楽しむ人も多い。東京都内 1 位人気の高いお花見スポットです

東山貝塚遺跡



● 縄文時代中期（BC5500～4500）から弥生時代（BC2500）にかけての遺跡と考えられ、貝塚の貝層からハマグリ、シジミなど出土し目黒川周辺の低地は縄文時代には海であり、東山近辺は、その深い入り江の奥にあったと考えられる。遺跡からクロダイ、アジの骨や鱗、イノシシ、シカ、クジラなどの骨も出土している。

目黒天空庭園



● 平成 24 年 3 月に首都高速大橋ジャンクションの屋上に開園した「目黒区立目黒天空公園」です。四季のきれいな花を咲かせる草花が訪れる人を和ませ、展望台デッキからは目黒の街並み、晴れた日には富士山を望むことができます。

駒場野公園



● 駒場野公園の一帯は、かつて広い台地で、人の背丈ほどもある笹が一面生い茂っていた。いまも松林など当時の面影を残すこの地は、むかしから馬の放牧には格好の場所だった。目黒の地名は、一説には馬（め）畔（くろ）からついたと云われ、万葉の昔から駿馬の産地として知られていた。なかでも駒場産の馬は古代から中世にかけ

て東国武士団の軍馬として重用されたという。

● 江戸時代には駒場野公園一帯は徳川將軍家の狩猟場とされ、鷹狩りの場所であった。明治になり駒場野公園は、東京教育大学農学部となったが、現在は筑波大学として、昭和 53 年（1978）に茨城県つくば市の新キャンパスへ移転した。跡地は整備され昭和 61 年（1986）公園として開園された。公園内には雑木林や水田があり、野鳥も数多く生息している。水田は、かつて駒場農学校の実習田圃で、当時のドイツ人教官オスカー・ケルネル先生の名をとって「ケルネル田圃」と現在も呼ばれている



● 上の写真は「ケルネル田圃」です。ケルネル博士は明治政府の招きで明治 14 年（1881）来日し 11 年間に亘って教鞭をとった。現在、筑波大学付属駒場中・高等学校の水田稲作実習に使われ、同校の入学式及び卒業式では、ケルネル田圃で収穫されたもち米が赤飯として 3 月の卒業生、4 月の新入生に配布されている。

東大駒場キャンパス



● もともとこの地区は、現在の東京大学農学部の前身である駒場農学校(その後東京農林学校—東京帝国大学農科大学と改称)の校地であったが、昭和10年(1935)、東京大学農学部は本郷校地の旧第一高等学校と校地を交換して移転し、代わって移転

してきた旧制第一高等学校は、新制東京大学に包括され廃止されるまで、ここを校地とした。そして新制大学への移行により、旧制第一高等学校に代わり東京大学教養学部がこのキャンパスに設置され、現在に至っている。

● キャンパス内には、旧制第一高等学校の寮歌として知られる「嗚呼玉杯に花うけて」の碑があり、その他にも「一高ここにありき」「第一高校寄宿舎跡」「新塾(にひはり)」などが建っている。



● 正門の大扉に旧制第一高等学校の校章だったものが、そのまま残っています。デザインは「柏(オーク)」の3葉と、「橄欖(かんらん・オリーブ)」の3葉6実を組み合わせ、明治19年(1886)に制定されたものであるという。

日本民藝館



● 日本民藝館は伝統的工芸品を主に収蔵展示する美術館。宗教哲学者、美術研究家で民芸運動の主張者でもあった「柳宗悦(やなぎむねよし)先生」によって昭和11年(1936)創設された。収蔵品は絵画、陶磁器、漆器など約17,000点に及び、入館料金は¥1,100で外観のみ見学。

日本近代文学館



● 作家の高見順先生らの文学者・研究者が、文学資料を収集・保存する施設の必要を広く訴え、昭和37年に設立準備委員会を立ち上げ、昭和42年(1967)この地に建物が開館しました。現在、図書や雑誌を中心に数々の名作の原稿も含め、120万点の資料を収蔵している。入館閲覧料は一日¥300となっています。

駒場公園 前田家和館



● 駒場公園は旧前田侯爵邸跡に造られた。旧加賀藩主・前田家の第16代当主前田利為(まへだとしなり)侯爵の邸宅だった場所。加賀藩の上屋敷は、もともと本郷にあり、明治維新後も、そこが前田侯爵邸となっていたが、大正15年(1926)に東京帝国大学が駒場に所有していた敷地の一部と

交換し、ここに移ってきた。前田家と東大は、本郷の「赤門」だけでなく、ここ駒場でも縁が深い。

● 旧前田侯爵邸は終戦後、連合軍に接收され極東総司令官リッジウェイなど12年間にわたって司令官邸などとして使用された。返還後、昭和42年(1968)に都立公園となり、昭和50年(1975)から目黒区に移管されている。北門の右側には前田育英会が管理する「尊経閣文庫」があり、国宝22点を含む前田家所蔵の和漢書を東京都近代博物館として保管している。この文学博物館は、昭和4年(1929)建築された前田侯爵邸だった地上3階地下

一階建ての「洋館」をそのまま利用している。建物の内部は一般に公開されているが、耐震工事のため、平成30年9月まで見学不能となっている。

● 駐在武官として長くヨーロッパ各国に赴任していた経験のある前田侯爵は帰国後の昭和4年にこの洋館を構えた。博物館と渡り廊下で繋がっている「和館」も旧前田邸の一部で、昭和5年(1930)に建築されたもの。書院造りの落ち着いた屋敷で、前田家では普段は、この建物を使わず、「ひな祭り」や「端午の節句」「茶会」などを催すときだけに使用したという。鎌倉文学館も関係します。

鍋島松濤公園



● 渋谷区南平台と並ぶ高級住宅地の松濤一帯は紀州徳川家の下屋敷でした。明治維新になり、佐賀鍋島家が払い下げを受け、明治9年(1876)に茶園を開いて「松濤」の銘で茶を売り出した。この「松濤」が町名の由来となった。茶園が廃止されてからは湧水池を中心とする一画が児童遊園として公開され、昭和7年に東京市に寄贈された後、渋谷区に移管された。現在は桜の時期には多くの人が訪れます。

恋文横丁跡

● 「恋文横丁」は現在は標識だけになっています。

● 戦後5年を経て朝鮮戦争が始まり、多くの米兵が日本を前線基地として戦場へ向かう。元海軍兵学校出身者は、米兵を客としてきた英語の通じない日本女性達に代筆・代読する店を開いた。そして、戦前に知り合っ